



トップインタビュー

東新プラスチック株式会社 代表取締役 **高橋 誠氏**

東新プラスチックは、精密機器メーカーや電機メーカーなどが集積する北八王子エリアで、一貫して射出成形に携わってきました。金型メーカーをはじめ多くの協力会社とネットワークを構築し、近年は協働ロボットによる自動化や工場のDX化も進め、生産性の向上やものづくりの高付加価値化にも取り組んでいます。今回は同社の高橋誠社長に話を聞きました。

ネットワーク化とDXで ものづくりを高付加価値化

金型製作から組み立てまで

当社は主に合成樹脂の成形加工を手掛けており、金型製作から組み立てまでを一貫して請け負うことができるのが強みです。創業から60年以上にわたり、自社製品づくりも含め培ってきたものづくりに関するノウハウと協力会社のネットワークを活かし、品質にこだわった最良の加工方法を提案しています。

電機や機械、自動車部品、OA機器部品、通信機器部品向けなど、これまでに多様なプラスチック成形品を手掛けてきました。ディスペンサーやシリンジといった、ちりの流入すら許されない製品に関しては、クリーンルーム内で検査、梱包まで行っています。汎用樹脂を高精度でつくることができるのも、私どもの特徴です。

少人数でありながら、お客様と技術についてとことん話をしながら、スピーディーに決断できる小回りの良さにも優位性があると考えています。簡潔に言えば、正直にきっちり仕事をして、お客様のニーズに合わせて作り込みができます。

他社との協業で複数加工も

私は2000年に2代目の社長となってか

ら、用意された金型を支給されて射出成形だけを行うという、一般的なプラスチック加工業からの脱却を図りました。具体的には金型メーカーと協力しながら図面から金型を起し、成形までを手掛けるように事業形態を変えたのです。これにより、付加価値を高めることができたと自負しています。

また、総合力が求められる難易度の高い製品の相談を受けた場合には、当社が取りまとめ役としてすべての加工に責任を持ちコーディネートします。材料調達から加工、表面処理、梱包までをネットワーク化しているからこそ、他のメーカーと協業しながら複数加工に対応できるのです。

工場のDX化で生産性を向上

当社では工場のDX化にいち早く取り組み、協働ロボットを導入し一部品目の生産を完全に自動化しました。また、村田機械(京都市)のプラスチック成形用生産管理システム「MICS7」を導入しています。同システムは射出成形に特化したもので、管理用パソコンと成形機すべてに取り付けた現場端末機との通信により、成形工場の生産管理業務の高度化・効率化を図るシステムです。



工場の拡張を予定している

成形機からの情報をすべて取得し、リアルタイムで受注状況や製品の累計生産数、成形機の稼働状況などを一括で管理できます。システム上で生産計画を立てたり、受注データをシステムに取り込んで生産の進捗を確認したりすることも可能です。

さらに、同システムでは、成形機の稼働状況や生産の進捗を把握できるほか、次に生産する品目も分かります。さらに不良率も分かり、歩留まりの向上にも役立ちます。当社はMICS7のモニター工場となっているため、同システムの導入を検討している企業からの見学も受け入れています。

一貫となりそうな企業に対し外部に電話営業をお願いし、アポイントが取れた先に当社の営業担当者が訪問するという取り組みです。

より一層営業力を強化していくために、こうした外部のサービスも活用することにしました。最近では都内から多摩地域、埼玉県、相模原方面にも営業先を広げているところですが、さらに生産面でも、生産能力の引き上げに向け、新工場用地を本社近くに取得済みで、近い将来、工場を拡張する予定です。

プッシュ営業にも乗り出す

当社はこれまで、既存顧客からのご紹介やトップセールスによる顧客開拓を除いて、電話営業などのいわゆる“プッシュ型”の営業は行ってきませんでした。最近ではITを活用した営業支援サービスも普及してきたことから、当社も23年にIT補助金を活用し営業支援プログラムを導入しました。ユ




協働ロボットにより自動化を実現



横走行型取出口ロボットを活用

商号	東新プラスチック株式会社
代表者	代表取締役 高橋 誠
所在地	東京都八王子市石川町2972-11
従業員	40名
創立	1961年7月
ホームページ	https://toshin-plastic.co.jp



My proud technique is...

TAMA協会会員の

今月の

ワザ自慢!



効率アップ、品質向上、明日のイノベーションのため、独自に磨いた技・業・ワザに学びたい。コンペティターや見えない市場を想定し、自社の強みを打ち出すところに成功の鍵がある。

回路・基盤設計 株式会社厚木マイクロ

薄膜パターンニング技術で最先端分野に挑戦

厚木マイクロ(神奈川県厚木市)は、最先端分野を走る開発者集団として、薄膜パターンニング技術を駆使した電極基板を製造している。有機EL(OLED)関連部品、光学部品、センサー関連部品を3本柱とし、これまでに液晶ディスプレイ、プラズマパネル、電子ペーパー、スマートフォン、有機ELなど画期的な製品の開発、技術パートナーとして、国内外で大手メーカーの量産プロジェクトにも参画してきた。



同社はフォトリソグラフィとエッチングという基礎技術による薄膜エッチングを強みとし、印刷技術では難しい立体物へのフォトリソグラフィ技術によるパターンニングも可能。上田康彦社長は、「時代に合わせたものづくりの中身を変えながら、世の中にまだないものをつくっているのが当社の特徴です」と胸を張る。

同社は「パッシブ型」と呼ばれる、有機EL用の基幹部品である超薄型ガラス基板を開発、

製造している。2016年に車載向け有機EL照明用のアノード電極基板を開発。近年は独OLED Works社と、自動車のテールランプ用にデジタルOLEDを製品化した。今後も「有機ELを使ったテールランプは搭載車が増える見通しで、電気自動車(EV)向けの需要増も期待できる」(上田社長)。照明用途としても国内化学メーカー向けにOLED基板を供給している。有機EL照明は、LEDに比べ、影ができにくく目に優しいとされており、美容分野や教育現場、製品検査などの産業向けにも



用途が見込める。

ものづくりを支える人材面では、24年4月に新卒社員2名の入社が決まっている。「今期の事業方針で掲げた『ひとつづくりへの投資』を来期以降も継続し、新卒社員を受け入れられるような会社づくりを目指したい」(上田社長)と先を見据える。

商号 株式会社厚木マイクロ
代表者 代表取締役社長 上田 康彦
所在地 神奈川県厚木市長谷366
創立 1987年
ホームページ <https://www.at-micro.co.jp/>



〔本コーナー掲載企業募集中〕

貴社の「ワザ自慢!」を記者が取材します。お問い合わせは、事務局(info@tamaweb.or.jp)まで

ミライ
へ
つなぐ

株式会社リサシステム
× 中小企業振興公社多摩支社

ソフトウェア開発会社がものづ

リサシステム(東京都町田市)は、自宅などで人工呼吸器やパルスオキシメーターの見守りが必要な患者の保護者・介護者向けに、医療機器に後付けするアラーム検知装置を開発し2023年10月に発売した。ソフトウェアの受託開発を主力事業とする同社は、自社製品開発の一環として「医工連携」により、ソフトとハードを組み合わせた装置の実用化に成功した。ものづくりの経験がなかった同社だが、公的支援を活用しながらデザイン会社や試作・設計会社との協業により製品化にこぎつけた。

在宅で子供を介護する親の声を生かす

同社の篠崎忠生社長は自社製品の開発を検討した際、「ソフトウェアの場合は類似商品や競合も多いため、ハードウェアと組み合わせの方が差別化できると考え、さまざまにサー

チをしました」と振り返る。こうしたなか、東京都中小企業振興公社多摩支社の医工連携に関するワークショップに参加。日常的に人工呼吸器の管理などが必要な「医療的ケア児」の親や臨床工学技士から、在宅で医療的ケア児を見守るシステムを求めていることを知った。同社は19年から開発に向けたニーズの把握に乗り出した。

当時、同多摩支社のコーディネーターとして、リサシステムの製品開発を支援した内山朗氏(中小企業診断士、元日本工業大学客員教授)は、「臨床工学技士や看護師ら医療スタッフの声を聞いたところ、当初想定ニーズだった院内の人工透析機器では、アラーム検知のシステムがすでにあり、むしろ、在宅で医療的ケアが必要なお子さんの見守りシステムへのニーズが切実だった」と明かす。

実施報告

Layer1:交流

TAMA技術連携交流会@八王子

首都圏産業活性化協会(TAMA協会)は1月12日、初の試みとなる「技術連携交流会@八王子」を、東京たま未来メッセC・Dホールで開催しました。

「交流そして連携、創造に向けて」をテーマに、出展数は会員企業・団体合わせて45ブースにご出展いただきました(特別協賛4ブースを含む)。また、Dホールでは、中小企業庁・令和5年度「中小企業のイノベーション創出を支援する『イノベーション・プロデューサー』による活動支援実証事業」でのフードバイオ・アグリビジネスに関する特設展示・セミナーを開催しました。



特設ステージでは開会式が盛大に行われました。野長瀬裕二会長の開会挨拶に続いて、関東経済産業局の五十嵐悟地域経済部長、東京都産業労働局商工部の山崎太郎商工部長、東京都中小企業振興公社の矢田部裕文専務理事、西武信用金庫の高橋一朗理事長よりご挨拶をいただきました。出展者様からは交流会について、「良かった」といったお声をいただいた一方、「一般来場者が少なかった」など、貴重なご意見もいただきました。皆様からのご意見は、次回の運営に活かしていきたいと考えております。

令和6年「新春講演会・賀詞交歓会」を開催

TAMA協会は1月12日、東京都八王子市内で令和6年「新春講演会・賀詞交歓会」を開催しました。講演会では愛知淑徳大学ビジネス学部・研究科の真田幸光教授が登壇し、「2024年の国際環境と経済情勢～激動の世界経済における日本の取るべき戦略～」をテーマに話しました。写真。会場には約130人が詰めかけていました。

講演で真田教授は日本経済を支える中小企業の重要性を強調。そのうえで真田教授は「品格あるリーダー、義のあるリーダーがいなくなっている。私欲があるリーダーは排除される。企業も原点に戻り、人様に「ありがとう」と言ってもらえるビジネスを進める必要がある」と話していました。また、今後この国にとって大切なのが、「(国際的社會で)自立できる基盤を、いかに作っていくかが問われる」とも話していました。



トピックス

Go-Tech事業の公募に関する事前告知

中小企業庁より令和6年度予算「成長型中小企業等研究開発支援事業」(Go-Tech事業)の公募に関する事前告知が行われました。令和6年度予算「成長型中小企業等研究開発支援事業」は、中小企業者等が大学・公設試等と連携して行う、研究開発およびその事業化に向けた取り組みを最大3年間支援するものです。本事業の公募に関して、事前告知を行いますのでお知らせします。

※本事業は、令和6年度予算の成立を前提としており、事業実施には当該予算の国会での可決・成立が必要となりますのであらかじめご了承ください。右の二次元コードからご覧いただけます。



コダマコーポレーションの小玉社長が日刊工業新聞社賞を受賞

会員企業であるコダマコーポレーションの小玉博幸代表取締役社長が、卓越した手腕で企業の成長や社会の発展に大きく貢献した経営者を表彰する「第41回優秀経営者顕彰」(日刊工業新聞社主催)で、「日刊工業新聞社賞」を受賞しました。「CAD/CAMは経営全体にかかわる製造業の経営ツール」と位置付け、トータルソリューションの提供に力を注ぎ、製造業へ貢献したことが認められたことが、受賞理由です。

今後の予定

(予定は変更になる可能性があります。詳細はホームページをご確認ください)



Layer1:交流

第46回つなぐWa Session ※原則毎月第4金曜日開催

日時:2024年2月16日(金) 16:00~18:15 ※Zoom併用開催
場所:八王子市新産業開発・交流センター (JR八王子駅ビル セレオ北館9F)
テーマ:人材戦略立案セミナー～人材について有益な情報提供します!!～

第4回つなぐWa Session Global ※偶数月第4月曜日に開催

日時:2024年2月26日(月) 16:00~18:00
場所:八王子市新産業開発・交流センター(JR八王子駅ビル セレオ9F)
※Zoom併用開催
テーマ:海外で売れるモノ・サービスとは?

第39回はむらイブニングサロン

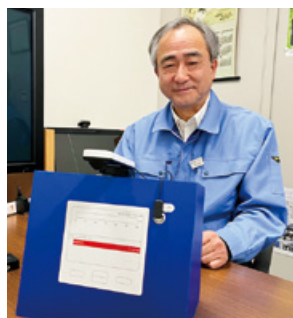
日時:2024年2月28日(水) 16:00~17:30
場所:羽村市産業福祉センター2F Iホール
テーマ:女性経営者が語る夢への挑戦

くり 医工・産学連携で製品化に成功

外部の知見を活用し製品化

同社の見守りシステム「アラーム検知之助」は、医療機器に本体を後付けして、アラームランプの点灯・点滅をセンサーで検知。検知したアラームと発生したときの医療機器のモニター画像を、クラウドサーバー経由で登録した複数台のスマートフォンに通知する。アラームの発生は、メール、LINEなどのSNSアプリにも通知が可能だ。

自宅などで人工呼吸器やパルスオキシメーターのアラーム監視が必要な患者の保護者は四六時中、機器の状態を監視する必要があり、多大な負担やストレスを強いられている。医療的ケア児の保護者らは、家事や入浴などの際、一時的に患者から離れていてもアラームの発生をスマートフォンで



試作から改良を重ねた

知ることができ、見守りの負担が軽減される。

見守りシステムの開発では、国立成育医療研究センターの臨床工学技士である片岡氏に仕様検討の際、アドバイスを求めた。また、片岡氏による患者家族紹介で医療的ケア児の介護の実態ヒアリングと試作品のモニター試用の機会を得たことで、保護者のニーズに寄り添った製品仕様となった。コロナ禍があったため20年秋にプロトタイプができてから22年3月に製品化するまで、約1年半の開発期間を要した。アラームランプ点灯検知については、「色の判別にはRGBカラーセンサーを使っているが、窓から朝日が当たる場所などでは外部から光の影響があり、検知レベルを調整するのが難しかった」(篠崎社長)。光学検

査装置の専門会社の知見も借りながら、自社が受託開発で培ったソフトウェア技術を活用し、読み取り精度を高め誤検知を防いだ。

製造現場への応用も

近年は3Dプリンターに代表される技術革新により、ものづくりへの参入障壁は低くなっている。実際に同社は、プロトタイプは3Dプリンターで作製した。本開発にあたっては、筐体設計とものづくりは南デザイン(東京都青梅市)、製品自体や利用者の満足に関わる筐体デザインとUI・UXデザインはマナブデザイン(東京都中央区)と協業した。内山氏は、「今回の取り組みはデザイン思考をもとに、ラピッドプロトタイプングとアジャイル開発という手法を使って製品化に成功した事例です」と説明する。

篠崎社長は、首都圏産業活性化協会の知財戦略支援で取り組んだ経営デザインシー



トを活用して「アラーム検知之助」の今後の展開を構想している。

同社の見守りシステムは、23年の6月に行われた日本在宅医療連合学会大会の発表で反響があり、医療分野での販売ルートが確保できたことで在宅患者だけではなく医療機関向けへの展開にも道が開けた。今後は、製造現場の異常検知など、産業分野への展開も視野にアプリ開発と販路開拓を進める計画である。

商号 株式会社リサシステム
代表者 代表取締役 篠崎 忠生
所在地 東京都町田市小山ヶ丘2-2-5-8
創立 1990年6月
ホームページ <https://www.lisa-system.co.jp>





広げよう会員の輪 新規会員の紹介



新規会員との意見交換・面談を希望する方は、事務局へご連絡ください。

NEW

情報システム部のアウトソーシング

ICT×ハンズオン型コンサル=経営改革実現
ICカード技術×ベトナムチーム=海外で独自サービス実現(日経本紙記事掲載)
Azureシステム構築支援サービス

- 民間企業、公益法人、土業など分野問わず、情報システム部のアウトソーシング
- ICTと企業経営の経験を活かした経営改革を実現
- FeliCa技術でICカードサービスの企画・開発・サービス提供
- オリジナルデザインのFeliCaカードを1枚から発行(社員証・セキュリティプリント認証・入退室管理など)
- ベトナム企業と協同で人手不足解消
- 日本とベトナムのボーダーレスマーケット開発
- オリジナルのアイデアとICTで省力化を実現



ベトナム企業と協同で行った現地PJの献血カード(FeliCa)

パークウェイ株式会社
東京都杉並区桃井1-3-4唐沢ビル2F
TEL 03-5311-2371 URL https://www.parkway.co.jp



NEW

『登記・相続、まずはご相談ください。』

司法書士山口法務事務所では、まずはお客様のお話を詳細に伺うことをモットーとしております。その上で、そもそも手続が必要なのかそうでないのか、必要としても他の手続の方が良いのではないのか、プラスの手続が必要ではないのか。さらには、時間経過による事情変更により、さらなるフォローが必要ではないのか、複数の選択肢が存在する場合、それぞれのメリット・デメリットをお伝えし、最適な提案をさせていただきます。



司法書士山口法務事務所 司法書士 山口 俊哉
東京都立川市曙町一丁目16番17号-302号
TEL 042-595-7596 FAX 042-595-7597
URL http://yamaguchi-shiho.com

会員企業アンケート①

「最も関心のあるもの」は？

首位は「新製品・新事業開発」、トップ3は昨年と変わらず

TAMA協会は会員企業を対象に、このほどアンケートを実施しました。トップラインの引き上げに直結する「販路開拓・海外展開」が1位になると予想していましたが、本年度は「新製品・新市場開拓」が1位となり、昨年度1位であった「人材関連」は2位、「販路開拓・海外展開」は3位となり、トップ3の顔ぶれは、ここ3年実施したアンケートでは変化がないという結論になりました。有効回答者数は58社。

関心上位3項目の2022年度と2023年度との比較

	2022年度	2023年度
1	人材関連(採用・育成) 34.6%	1 新製品・新事業開発 37.9%
2	新製品・新事業開発 30.8%	2 人材関連(採用・育成) 27.6%
3	販路開拓・海外展開 23.1%	3 販路開拓・海外展開 15.5%

自社にとって最大の関心事は？(複数回答)

新製品・新事業	37.9%
人材関連(採用・育成等)	27.6%
販路開拓・海外展開	15.5%
研究・技術開発	13.8%
生産・生産管理	6.9%
外注・調達関連	0.0%
外部資源の活用	0.0%
財務体質強化	0.0%
社外関係者との関係	0.0%
事業承継	0.0%

関心ある上位3項目の合計(複数回答)

新製品・新事業	72.4%
人材関連(採用・育成等)	65.5%
研究・技術開発	46.6%
販路開拓・海外展開	43.1%
生産・生産管理	22.4%
社外関係者との関係	17.2%
外部資源の活用	13.8%
外注・調達関連	12.1%
財務体質強化	12.1%
事業承継	1.7%

詳細を見ると、1番関心が高かった「新製品・新事業開発」では、「新製品開発の具体的なやり方」「公的支援策」への関心が高く、2番目に関心の高かった「人材関連」では「技術系専門人材」への関心ニーズが74.1%と「営業人材」(48.3%)と比較して際立って高い結果となりました。

人材関連は1番関心が高いという訳ではありませんが、関心項目上位3つの中ではかなり高い関心度となっています。これら関心項目上位の顔ぶれは、3年連続変化がなく、会員企業の関心の高さが伺える結果となりました。協会としては、これらの課題を解決すべく、スキーム(枠組み)の構築を検討

していきます。特に技術系人材を中心とした非常に高いニーズに対し、人材分野の新規会員企業獲得に注力しており、それらの企業とのマッチングの強化や具体的な提案に結び付け、実効性ある課題解決を図っていきます。さらに、新製品・新事業開発につ

ても丁寧なヒアリングを心掛けます。「具体的なやり方」に対するスキームを協会内で協議し、有効な提案へと結び付けます。「公的支援策」については、協会内のノウハウと各省庁のネットワークを最大限活用し、提案活動に力を入れてまいります。このほか、高い関心を示した項目は、

「売上増加」と「利益増加」で、従業員人数が「不足」しているというものでした。なお、それらの不足を中途採用で賄っているという実態が明らかとなり、協会に対して「補助金・助成金支援」と「企業間マッチング」を強く求めていることが分かりました。

会員企業アンケート②

TAMA協会事務局へ相談したい事項

産学官連携や研究開発、製品・技術のPRに期待

TAMA協会では1月12日に行われた新春講演会の来場者およびオンライン視聴者を対象に、事務局へ個別に相談したい事項についてアンケートを実施しました(複数回答)。回答は多い順に下記のような結果となりました。協会では、これらのアンケート結果を踏まえて、より一層会員企業のお役に立てるように取り組んでまいります。

《協会事務局へ相談したい事項》

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1位 産学官連携、研究開発支援 | 5位 事業承継、後継者、M&A戦略 |
| 2位 人材育成、教育研修 | 6位 製造現場におけるDX/IoTの促進 |
| 3位 各社の製品や技術のPR支援 | 7位 新卒、中途採用 |
| 4位 カーボンニュートラルへの取組 | 8位 知財または標準化に関する戦略 |
| | 9位 競争的資金の提案 |
| | 10位 経営デザインシートの作成 |

そろそろやらなきゃ...とお思いのあなた!

クラウド型事業承継実行支援サービス

承継ちゃん

かんたん 月々 6,600円

自分のできる

syoukeichan.com

TAMA経済NEWS(つなぐWa)では広告協賛いただける企業を募集しています。詳細は事務局(info@tamaweb.or.jp)までお問い合わせください。
【サイズ】①横57mm×縦48mm、②横57mm×縦100mm、③横262mm×縦98mm、④横127mm×縦142mm(特別枠)の計4タイプがあります。

発行元・問い合わせ

一般社団法人首都圏産業活性化協会 報「つなぐWa」は、協会ホームページに掲載し、メールマガジン等で企業・自治体・商工団体・金融機関等へご案内しています。
一般社団法人首都圏産業活性化協会 Email: info@tamaweb.or.jp URL: https://www.tamaweb.or.jp/

■八王子事務所

〒192-0083 東京都八王子市旭町9-1八王子スクエアビル11階 TEL:042-631-1140 FAX:042-631-1124

■羽村サテライト(月曜日休館)

〒205-0003 東京都羽村市緑ヶ丘2-11-1羽村市産業福祉センター1階 TEL:042-570-3481 FAX:042-570-3482